6/1 早稲

骨太、新資本主義案公表

岸田色どこへ「分配」失速

アベノミクス焼き直し／財源不明

岸田文雄首相の看板政策「新しい資本主義」の実行計画案がまとまった。参院選に向けた経済政策の政権公約となるが、アベノミクス以来の成長戦略の焼き直しが目立ち、格差是正や分配に力点を置いた「岸田カラー」は色あせた。骨太方針案では財政健全化目標が揺らぎ、財源論を素通りしたまま歳出拡大圧力が強まっている。＝❶面参照

■ぶれた軸足

「市場だけでは解決できない社会的課題をエネルギー源と捉え、新たな成長を図る」。首相は三十一日の新しい資本主義実現会議で政策の意義を力説した。計画案にはデジタル技術を活用した地域活性化策「デジタル田園都市国家」など首相が意欲を示してきた施策が列挙された。「企業の生産性を向上させ、自発的に賃上げできる環境づくり」（ソニーフィナンシャルグループの渡辺浩志シニアエコノミスト）につなげられるかどうかが焦点だ。

一方で、昨年の自民党総裁選で訴えた分配重視の姿勢は後退した。富裕層を念頭に置いた株式売却益など金融所得への課税強化は「岸田ショック」として市場から株安の冷や水を浴びせられ、早々に封印。池田勇人元首相の「国民所得倍増計画」になぞらえた「令和版所得倍増」も、ふたを開ければ家計に貯蓄から投資への移行を促す「資産所得倍増プラン」にすり替わった。

実現会議には十五人の有識者を集めたが「言いっ放しでまとまりはない」（関係者）。「聞く力」をアピールするも政策の軸足が定まらず、自民党から「菅が『新しい資本主義とは何だ』といらいらしている。首相は君子豹変し『岸田プラン』を出してほしい」（福田達夫総務会長）と苦言が出る始末。財界幹部は「日本経済の課題は変わらない。政策のスピード感が重要なのだが」と語った。

■気配り

「インベスト・イン・キシダ（岸田に投資を）」。首相は五月上旬に訪れた英ロンドンの金融街シティーで、投資家に新しい資本主義を売り込んだ。その姿はかつて米ニューヨーク証券取引所で自身の政策を「バイ・マイ・アベノミクス（アベノミクスは買いだ）」と誇った安倍晋三元首相と重なる。

計画案には大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略というアベノミクスの「三本の矢の枠組みを堅持」との文言も入り、自民党最大派閥トップの安倍氏への配慮は明らかだ。経済官庁の幹部は「第四派閥である首相は気配りが重要ということだ」と解説してみせた。

■優先順位

骨太方針案では、基礎的財政収支（プライマリーバランス）を二〇二五年度に黒字化する目標の「旗を下ろさない」としつつ「目標年度によって政策の選択肢がゆがめられてはならない」「必要な検証を行う」と明記し、安倍氏ら積極財政派の意向が色濃く反映された。財政規律派の議員は「影響力のある人が強く言えば、通ってしまうのが今の政治の現実だ」と肩をすくめる。

「相当な増額」をにらむ防衛費をはじめ、脱炭素や子育て支援など支出増につながる政策課題はめじろ押しだ。「限られた財源の中で優先順位を付けるのが政治家の仕事」（財務省幹部）との声をよそに、肝心の財源について首相は具体的な言及を避け続けている。参院選後に本格化する来年度予算編成では、国債増発などで財政健全化がさらに遠のくのは確実だ。

「新しい資本主義」を巡る岸田首相の発言

自民党総裁選後の記者会見	新しい資本主義を構築し、成長と分配の好循環を実現
首相就任会見	金融所得課税も考えてみる必要がある。さまざまな選択肢の一つ
テレビ番組	（金融所得課税に）当面は触ることは考えていない
政府の新しい資本主義実現会議	新しい資本主義の起動にふさわしい3％を超える賃上げを期待する
国会の施政方針演説	経済再生の要は新しい資本主義の実現だ
英ロンドン・シティーの講演	新しい資本主義は「人への投資」「科学技術・イノベーションへの投資」「スタートアップ投資」「グリーン、デジタルへの投資」が柱だ インベスト・イン・キシダ（岸田に投資を）

経済財政運営のイメージ

新しい資本主義
- 経済社会の課題解決に向けた岸田政権の考え方
- 成長戦略と分配戦略の実行計画

中核に

骨太方針
- 経済財政運営の全体像
- 重要政策や成長戦略を包括的に盛り込む
- 予算編成や税制改正などに反映